KKR

KKR、三菱商事・ユービーエス・リアルティの株式取得完了

新社名を「KJR マネジメント」としてさらなる成長ステージへ
KKR は日本へのコミットメントを深化させ
グローバル不動産事業の AUM は 540 億米ドルに拡大

【ニューヨーク、東京 2022 年 4 月 28 日】KKR & Co. Inc.（関連子会社と合わせて以下、KKR）は本日、三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社（以下、MC-UBSR）の全株式取得を完了したことをお知らせいたします。

KKR は三菱商事および UBS アセット・マネジメントから MC-UBSR の発行済全株式を取得、今後 MC-UBSR は商号を株式会社 KJR マネジメント（以下、KJRM）として事業を運営します。

加えて KKR は三菱商事が保有していた日本都市ファンド投資法人（以下、JMF）および産業ファンド投資法人（以下、IIF）の投資口の KJRM による取得も完了しました（上記の MC-UBSR の全株取得と合わせて、以下、本取引）。JMF および IIF の商号および戦略の変更はせず、従前通り事業を継続します。約 160 名のプロフェッショナルは KJRM の下で MC-UBSR での役割を継承し、引き続き両投資法人の運用を担います。

KJRM 会長の岡本勝治と同社社長の鈴木直樹は次のように述べています。「KKR の一員として、KJRM の次の成長段階に踏み出すことを大変嬉しく思っています。JMF と IIF は従前の業務および投資プロセスを維持しながら、KJRM ではそれぞれのスキルやネットワークを補完し、REIT 投資主に優れたパフォーマンスを実現できるよう尽力してまいります。」

KKR アジアプライベートエクイティ共同代表兼 KKR ジャパン代表取締役社長平野博文は次のようにコメントしています。「J-REIT 市場で盤石な運用プラットフォームを築いた世界トップクラスの不動産投資チームを KKR に迎えることを大変光栄に思います。今後は JMF と IIF は KKR の APAC 地域および日本における不動産ストラテジーの一部となり長期視点でさらなる成長を目指してまいります。」

本取引完了により、KKR のグローバル不動産ビジネスの資産運用総額は 540 億米ドル [1]に拡大します。

以上

KKR について

グローバル投資運用会社である KKR（NY 証取:KKR）は、オルタナティブ・アセット、キャピタル・マーケッツ、保険ソリューションを提供しています。長期的かつ規律ある投資アプローチを採用し、世界トップクラスの人材を投じてポートフォリオ企業やコミュニティの成長を支援し魅力的な投資リターンを創出することを目指しています。KKR はプライベートエクイティ、クレジット、実物資産に投資する投資ファンドのスポンサーとなっており、また、ヘッジファンドを管理する戦略的パートナーを有しています。KKR の保険子会社はグローバル・アトランティック・ファイナンシャル・グループ管理下で退職金、生命保険、再保険商品を提供しています。KKR の投資に関する記述には KKR がスポンサーとなっているファンド及び保険子会社による活動が含まれる場合があります。KKR については www.kkr.com、Twitter@KKR_Co.をご参照ください。

[1] 本リリースにおいて運用資産額は総資産価値をベースとしている。

KKR

KJR マネジメントについて

KJR マネジメント（KJRM）は資産総額約 1.7 兆円を運用する国内最大級の不動産アセットマネージャーです。国内不動産投資信託（J-REIT）のパイオニアであり、現在、東京証券取引所に上場している日本都市ファンド投資法人（以下、JMF）と産業ファンド投資法人（以下、IIF）の 2 つの REIT を運用しています。JMF の運用資産総額は約 1.2 兆円（2022 年 2 月 28 日現在）、都市部に立地する商業施設、オフィス、ホテルなどに投資しています。IIF の運用資産総額は約 4 千億円（2022 年 1 月 31 日現在）、日本国内の産業用不動産およびインフラ用不動産の投資に注力しています。

###

本プレスリリースには将来予想に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述については、例えば、「見通し」、「思う」、「考える」、「想定する」、「潜在的」、「継続する」、「可能性がある」、「そうなるべきである」、「追求する」、「概ね」、「予測する」、「意図する」、「将来行う」、「計画する」、「推定する」、「予想する」、これらの用語の反義語、あるいはその他類似の用語又はその他の記述で厳密には過去の事象や事実と関連していない表現が用いられていることにより特定することができます。将来予想に関する記述は、予想、推定、考え、予測、将来計画及び戦略、想定される事象や傾向、及び同様の表現で歴史的な事実でないものに関するもので、本取引、本取引完了後の KJRM の運営、事業の拡大や成長の機会及び本取引に起因するその他の相乗効果といったものが含まれますが、これらに限られません。将来予想に関する記述は、KKR が現在入手可能なあらゆる情報を考慮した上での考え、前提及び予想に基づいております。これらの考え、前提及び予想は、KKR がその全てを認識又はコントロールできない、多くの潜在的な事象や要因により変わり得ます。もしそのような変化が生じる場合、KKR の事業、財務状況、流動性及び経営成績は、将来予想に関する記述において示されていた内容から大きく変わる可能性があります。実績が将来予想に関する記述と異なることの要因になり得るものとしては、例えば、次のようなものがあります－本件取引により想定していた効果を当初の予定期間内に実現できないこと、本取引に関し、予期していなかった負債や統合その他の費用の発生及びそのタイミング、KJRM の事業の変更、KJRM の重要な従業員の維持、KJRM において本取引後もこれまでの業務上の関係を維持できるかどうか、新型コロナウイルスの深刻度合及び期間、新型コロナウイルスの米国、日本及び世界経済への影響、国際機関、各国政府及び各地方自治体の新型コロナウイルス対応、本取引、戦略的提携その他の取引により見込まれる相乗効果の実現を含む、KKR 又は KJRM の本取引に伴う効果の実現又は事業戦略の変更の実現ができないこと、資本の利用可能性、条件及び配賦、適性な人材がいるかどうかまたそのような人材の採用及び維持に係る費用、資産運用及び保険の業界、金利、信用スプレッド、為替レート又は一般経済における変化、KKR 又は KJRM の投資の不調や資金調達能力の低下、資本市場のボラティリティ、KKR の事業に適用のある法令の遵守、KKR の事業において使用される推定やリスク管理、KKR が関係する訴訟や規制当局にかかわる事項の結果、KKR の事業における競合の程度や性質。

これらの記述は、KKR & Co. Inc.が 2022 年 2 月 28 日に SEC に提出した Form 10-K による年次報告書（2021 年 12 月期）の「Risk Factors」というタイトルの記載箇所で開示された事項を含む、多数のリスク、不確実性及び前提の影響を受けます。これらの要因については、KKR が SEC に提出する継続開示資料の中でその時々において改定される可能性があります。なお、SEC へ提出した資料については SEC のホームページ(www.sec.gov)上で開示されています。これらの要因は網羅的なものではなく、KKR が SEC に提出した資料や本プレスリリースに含まれている、他の注意喚起的な記述と共にご覧頂くべき内容となります。

将来予想に関する記述は全て、本プレスリリースの日付現在における予想となります。KKR は、法令で求められる場合を除き、今後生じる状況や事象を反映するために将来予想に関する記述を見直すといった責任は有しておりません。過去の実績は将来の業績を示すもの、又は保証するものではありません。

###

お問い合わせ

フィンズベリー・グラバー・ヘリング

（服部 070-7484-7703 minako.hattori@fgh.com 、淺野 070-7425-8483 ayako.asano@fgh.com）